

## 塗装する塗る前に・・・

### 【用意しておく便利な物】

#### 1. 使用する塗料

作品の使用目的や、好みに合った塗料を選んでください。

#### 2. 塗装用具

ニスハケをお勧めします。

#### 3. 塗料に適したうすめ液

ペイントうすめ液を使用します。塗装用具を洗うときにも使用します。

#### 4. 研磨道具

240番の空研ぎサンドペーパーと、400～600番の耐水サンドペーパーが必要です。

（作品の形状によってはスチールウールも使用できます）

#### 5. ウェス

いらなくなった綿布で代用できます。タオル地は埃が出やすいので避けてください。

#### 6. マスキングテープ

塗りたくない場所を保護するために使います。

#### 7. 新聞紙やビニールシート

周辺の汚れ防止に使います。

#### 8. ゴーグル、マスク、軍手やビニール手袋など

塗料の飛び散りによる汚れ防止に使います。

#### 9. 汚れてもよい服装

衣類に塗料がつくと、きれいに落とせません。

### 【塗装を避けた方がいい環境】

#### 1. 雨天や、湿度の高い曇天

（塗料が乾きにくくなったり、表面が白く濁ることがあります）

#### 2. 極端に気温が高い日

（塗料の乾きが早すぎるため、失敗しやすくなります）

#### 3. 極端に気温が低い日

（塗料が乾きにくくなります）

#### 4. 強風

（塗装面にゴミがつきやすくなります）

## ウッドオイル（油性）の塗装手順

### 1. 木地をよく研磨する

240番の空研ぎサンドペーパーを使って、木目に沿って研磨します。カンナをかけてある木材は表面がきれいに見えますが、塗料が染み込みにくい状態になっているので、しっかり研磨してください。「ウッドオイル」は木の質感をそのまま生かす塗料なので、塗装前の研磨は作品の仕上がりに大きく影響します。

研磨が終わったら、研磨カスをきれいに取り除きます。

### 2. 塗料をよく攪拌する

一部の成分が沈んでいることがあるため、塗装前にしっかり混ぜておきます。

### 3. ハケで塗装する（1回目）

全体に塗料を塗り広げ、木に塗料を馴染ませるため15分間放置します。放置する間に塗料が乾かないように、やや多めに塗ってください。

※濃い色にしたい場合は、放置時間を短くするか、同製品の「とうめい」を混ぜて淡い色を作ってから塗装してください。



### 4. ハケで塗装する（2回目）

まだ乾いていない「1回目」の塗装の上に、改めて上塗りします。塗り終わったら、すぐに工程5に移ります。

### 5. 研ぎ塗り

塗料が乾く前の塗装面を、400～600番の耐水サンドペーパーで塗料をすり込むように研磨します。表面が濡れた状態で研磨すると、研磨紙が目詰まりしにくくなり、なめらかな手触りに仕上がります。



### 6. ウェスで拭き取る

余分な塗料や研磨かすを丁寧に拭き取ります。

## 7. 完全に乾かす

容器に記載されている乾燥時間は20℃の環境で乾かした場合の目安であり、拭き取り方が足りない場合や、湿度が高い場合などには表記以上に時間がかかることもあります。

## 8. ハケで塗装する（3回目）

全体に塗料を塗り広げ、すぐに工程9に移ります。

## 9. ウエスで拭き取る

塗った塗料が乾く前に、布ですり込みながら拭き取ります。

最後に木目に沿って仕上げ拭きをすると跡が目立ちにくくなります。

## 10. 完全に乾かす

乾燥に関する注意点は工程7と同じです。

※オイルを何度も塗りすぎると、木が含みきれない分が仕上げた後でにじみ出てくる場合がありますので、全体で3回の塗装を限度としてください。

## 11. 表面を乾拭きする

汚れていない乾いた布で、力を入れて表面を磨きます。

磨くことで素材が持つ自然なつやを引き出すことができます。

## こんな時はどうすればいい？

塗装直後は問題なく仕上がっていても、時間が経過したときオイルが表面に染み出てくる場合があります。

この場合は、ウエスで丁寧に拭き取ってください。

浸透したオイルの乾燥は表面に比べて遅い傾向があり、塗料が完全に乾く前に気温が上がった場合などにオイルが染み出てくる場合があります。

染みこんだ塗料が乾くと、オイルが染み出す現象も収まります。